

ナイスの視線で、日常の楽しみをお届けする、西成発の地域情報誌

Take free!

なな

9月号
vol. 115



巻頭特集

なな
隣保館

「ワンコインでお腹いっぱい」
鶴見橋2丁目付近にて撮影



おとなりさんプロジェクトの飯島（左）と西田（右）

飯島：プロジェクトとして5つの隣保館を訪ねたが、まずはそれぞれの隣保館の印象などを話しながら、進めていきたいと思う。
若松：まず感じたのは、事業の運営に加え、経営についてもなかなか大変な問題があること。また、「あいセンター」などが運営するユニークな事業を見て、専従者の存在が必要だと思った。
佐々木：「らいとびあ21」の北芝界隈で見かけた、高齢者や子どもたちの生活風景に、コミュニケーションの原型のような懐かしさを感じた。また、地域の「食」を介して、外来者へのもてなしの心が生きているのが新鮮だった。それは北芝のコミュニケーションという、伝統を語り継ぐ教育の強さであり、隣保館という核が担うゆえだと思う。
西田：他地域とちがいで、茨木や北芝の隣保館などは、行政とのタイアップがうまく調和していると思った。住吉の隣保館は部落問題を前面に出していた。地域ごとの特徴を出せるのは民設民営のよさだと感じた。

飯島：尼崎上ノ島では、財政難に伴う尼崎市行政との葛藤が見られ、尼崎市立地域総合センター上ノ島はその渦中にあった。耐震化をきっかけに行政と協働して、まちづくりの拠点としての隣保館の計画づくりを進めてきたが、財源のところで行政とのバランスがうまくとれていないという印象が強かった。
寺本：尼崎は海沿い、山沿い、その中間エリアと別れていて、特に阪神、阪急、JRの3交通機関によっても文化の相違が見られるところだ。また西成市民館の指定管理もあと一年を残すのみとなっている。今後、大阪市が市民館をどのように扱うの

りして、見聞してきた各々の地域状況や課題点などをおさらいし、他地域から学ぶべきこと、参考にすべきこと、西成独自の長所などを語ってみることにした。この編集会議には、なびの愛読者であり、昨年12月に開館した民設民営の「にしな隣保館 スマイルゆくとあい」の寺本良弘館長にもご参加いただいた。寺本氏には、本特集の読後印象などをうかがい、ご自身がかかわる西成の現況などについても語ってもらった。予想外の展開になった。

隣保館の表情



番外編 となりの隣保館総括談話会

隣保館を行脚して

なび誌巻頭特集である「となりの隣保館」は、本年4月号の「茨木市隣保館／あいセンター」を皮切りに、「箕面市隣保館／北芝らいとびあ21」（5月号）、「すみよし隣保館／寿」（6月号）、「尼崎市立地域総合センター上ノ島」（7月号）、「西成市民館」（8月号）を5回連続で掲載してきた。
なび編集部の「おとなりさんプロジェクト」では、これまでの隣保館巡りを一区切

昨年12月にオープンした「スマイルゆくとあい」は西成発の民設民営隣保館。それはセツルメントに由来し、貧困、孤立・差別、排除など複合的・重層的な課題を抱えた住民に寄り添いながら、これらの困難に取り組む隣保事業を行ってきました。このような拠点施設が減少しつつある昨今、『なび』は大府内をはじめ全国の隣保館ルネッサンス活動に励む「おとなりさん」を訪ね、ええとこ取りをしています。

おとなりさんプロジェクト
飯島・西田・若松・佐々木



おとなりさんプロジェクトの佐々木（左）と寺本館長（右）

か不透明であり、受け手としての(「福祉」)石井記念愛楽園の動向も気になる。西成特区構想や、あいりんセンターの縮小計画問題もあり、あいりんセンターと隣保館との合同構想なども考えられるのではないかな。

隣保館ってなんだろう？

飯島：全国的に隣保館事業が停滞し、同和地区で1000館もあったものが800館ほどに減っている。全国的にはいまま公設置公営が多いものの、公設置民営いわ



議論は多岐に及んだ。

ゆる指定管理者制度が導入されていく傾向にある。西成や住吉のように民設置民営は稀有であり、隣保館は公営か民営かの難しい岐路に立たされている。同和地区だけの隣保館というイメージだが、隣保館のルーツであるセツルメントから思考すると、本来は様々な分野で考えていく必要のある事業だと思う。たとえばあいりん地区や生野などにも必要な施設だろう。

佐々木：なぜ隣保館が同和地区にだけ集約されているのかわからなかった。最近では、我々の生活する中で、同和地区以外でももっと手助けが必要な人々や、それをバックアップする応援団が必要になっていく。社会矛盾がたくさんある分、その力も必要になってくる。隣保館とは、そんな魂を救済する象徴だといえるのではなからうか。

飯島：確かにそうだ。と同時に、隣保館がなぜ生まれ、どのような事業や運動を展開してきたかを考える必要がある。歴史的にはセツルメントに由来するものの、日本的に変節したのではないかなと思う。

佐々木：我々の時代はセツルメント活動として認識していた。その時代背景のなかで、それらの場所に身をうずめて援助したり、勉強を教えたり、つまり自分の力を社会的

そこで最も重要なのが「相談」。具体的な困りごとの中に地域の隠れたニーズがある。ニーズの把握・発見は事業の立案・事業化といったフローがなければならぬ。全国的な隣保館の減少傾向は、地域の隠れたニーズを発掘する力の弱体化でもある。

若松：ニーズの発見には生え抜きの人が必要だと感じている。そういう人は地域の知人ネットワークに入っているし、それを通じて地域事情や地域独自のニーズを知ることができる。そういうネットワーク



底辺に活用し、利用してもらえないようにしてきた人たちがいた。他力^{たより}が大きな力となっていた時代でもあった気がする。関係性の希薄さが当たり前の時代になってしまったが、今こそ、そんな相互の力の譲りあいが必要だと思う。

隣保館をイメージする

飯島：隣保館のイメージをどう考えるか。
若松：「セツルメント」という大きな括り

の力をうまく使うことはできないだろうか。
飯島：西成ではその基本は押さえていると思う。ただ、企画力や構想力は優れているものの持続力や継続性が欠けているように思う。

寺本：我々の側にも事業の位置づけ、コミュニケーションの不足などを感じる。隣保館事業にはチームワークが必要なのだが、情報がうまく伝わらず、ディスコミュニケーションのままだに流れていくことがある。せめて意思の疎通をしておきたいが、そんな基本が踏まえられず残念なことが往々にしてある。

若松：隣保館の各部門が有機的に結びついていく必要がある。それぞれの関係性をつくることで、地域の課題や問題点が浮き上がってくるのではないかな。

隣保館の職員として現場的な発言や、同和行政の時代からコンサルティングの仕事をしてきたスタッフの意見、それに社会的関心から隣保館を見つめるスタッフまで、なびスタッフそれぞれの発言に加え、寺本館長の苦勞が見え隠れし、これからも隣保館事業への協力が必要だと感じている。

(文責：佐々木敏明)



ちんごん がんごん

ver.1.1

教育に取り組んでいるのは学校だけじゃない小中高のほかに地域の教育事業で活躍する団体・施設・仕組みを紹介していきます。

15時間目：よみかき教室番外編



受賞者と集合写真

7月23日(土)に、ホテルペイタワーで部落解放文学賞表彰式が行われました。西成識字よみかき・日本語教室(なび110号参照)に2015年4月から参加している吉永由美子さんが識字部門の佳作に入選され、表彰状を授与されました。審査員は『なくした60年をとりもどす』という文章は吉永さんにしか書けない」とコメント。吉永さんは壇上で感想を述べることになっていましたが、緊張のあまり言葉がでませんでした。そこで、同席した学習パートナーの山本さんが吉永さんの日々の様子を報告されました。参加者から拍手を受けた吉永さんは恥ずかしそうでした。以下、受賞した作文全文をそのまま掲載します。

「わたしは、六十七さいの一年生」(原文)

わたしは、小学校三年のとき、父がびょうきになり、しゅうにゆうがなくなり、ちやう女のわたしは、ほうこうにだされ、あさ

[沖田一志] 暑いとパソコンも調子が悪くなるの知ってますか？温度高くなると固まったり、寿命が短くなったり障害の原因になります。たまったホコリ取り除いて、掃除するのがお勧めです。



(左) 組坂審査委員長と懇親 (右) 受賞のコメントをする山本さんと吉永さん



からばんまではたらき、おなかをすかせていえにかえたらこんどは、いもうとやおとうとたちのミルクだいをつくるために母とふたり町にでて、つくずなどをひろいあつめるしごとをしました。わたしがたべるのはコッペパンがやつとでいつもおなががすきねむたいのに、ねられず、なきながらまたしごとに出かけました。たのしうにがつこうにいくともだちをみるとなげわたしだけががつこうにいかれないのかとかなしくさびしかつたです。しごとちゅうもぼーとしてなんどもおこられました。学校には、いととも、もどれず、そつぎょうしようしよもありません。おとなになつても字のよみかきができないので、だまされたり、いやがらせをうけたりつらいおもいをしながら、よるひとりでべんきようをして、どうにか、ひらがなとカタカナはよみかきできるようになりました。でもかん字や文しよはだめです、四月からまごが一年生になるので、わられたり、はずかしいおもいをさせたりしないかとしんぱいし、なやんでいたところ山本先生からわたしが30年まえにすんでいた、あしはらばしにきょうしつがあることをおしえてもらい、

きよ年11月からかよっていましたが三りん車でおうふく一時かんかかり、よるはたんどもこわいおもいをしたことしは、いちどいっただけでやすんでいました。しかし、せんせいから、つらくかなしいことがあつても、なにごとあきらめず、つづけることが一ばんだいじなことですといわれ、いから、ちかくていつしよにかよえるし、きょうしつのみなさんはみんなあたたかい人ばかりだからあんしんしてべんきようしましよと、すめられこの教しつにくることになりました。これからはまごにまけにようしつかりべんきようして、なくした60年をとりもどします。 吉永



授賞式が終わって、ホッとした様子

レポート…沖田一志
寺嶋公典

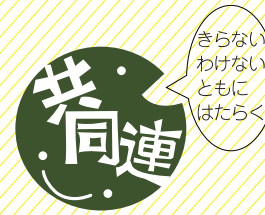
[寺嶋公典] しなければならぬことに迫られて、やりたいことがほとんどできてない状態が続いている。このままだと、来年も再来年も同じような生活が続くので、今年中に解決してみせる！



部落解放文学賞識字部門で佳作入選したで、吉永さん！

『なび』をつくる(株)ナイスは、地域での取り組みも、社会に向けた取り組みもいろいろ。多様につながる実践を紹介していきます。

VOL.29 特定非営利活動法人 共同連



30年以上にわたり“障がいのある人となない人が共に生き、共に働く場づくり”にこだわる共同連。9月24～25日には共同連発祥の地である大阪（ビッグ・アイ）で第33回の全国大会が開催されます。本号では大会の現地実行委員会の事務局長 永田さん（ちまちま工房）にご登場いただきました。



共に生き、働くとは？

共同連は従来の共同作業所がもっていた差別性を乗り越えて「共に働く」観点から共同作業所を名乗り1984年に大阪の地で結成されました。“差別性とは？”という方もあるかもしれませんが、共同作業所では「障がい者が支援対象者。スタッフが支援者。」という固定化された関係や「支援対象者は工賃。スタッフは給与。」という部分も差別性を持っています。共同連に加盟する全国100近くの事業所は、支援と被支援という関係ではなく「対等平等」であることを意識し、日々葛藤をしながら、事業（しごと）を通じて共に働き・運営・分配する『共働』の関係を目指しています。

共働作業所から社会的事業所へ

活動を通じて、手帳をもたない方の中にも働きづらさを抱えた就労困難者や

生活困窮者の存在を目の当たりにしてきました。そして、イタリアの社会的協同組合などとも出会い、共働事業所から障がい者手帳の範疇を超え、就労困難者も共に働ける『社会的事業所』の制度化



愛知県で行われた第26回大会の全体会

を目指しています。現在、滋賀県や三重県、札幌市、箕面市などで、名称や要件は少しずつ異なりながらも、自治体独自の制度が導入され始めています。

全国大会にむけて

そんな共同連ですが、全国の仲間が集う大会を年に1度開催しています。今大会の現地実行委員会は共同連加盟団体だけではなく、思いに共感した団体や個人が参加する「こちゃまぜ」の共同連関西ニューブロックが中心です。不器用で頼りない委員会かもしれませんが、つながることで一人や一組織ではできなかったことや考えられなかったことが、共同連という枠を超えて、互いに支えあい、一つの「カタチ」になります。ぜひ、9月24・25日はビッグ・アイにお越しいただき、「共に生きること」「共に働くこと」を一緒に考えましょう。

（文責：永田千砂）

めっちゃごちゃまぜええやんか！

- ひとり ひとりの人生ちやう？ みんなで支え合おう -

日程 2016年9月24日(土)～25日(日)

場所 国際障害者交流センター ビッグ・アイ 〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台1-8-1



■主催 特定非営利活動法人 共同連
第33回共同連全国大会 大阪大会実行委員会

大会参加費：2日間3,500円、1日間2,000円

大会参加申込〆切：9月12日（月）

※詳細プログラムは実行委員会にお問合せいただくか、大会案内号（<http://kyodoren.org/index.php?id=45>）をご確認ください。

第33回共同連全国大会 大阪大会実行委員会

〒861-8039 大阪府箕面市桜井2-105 桜井市場内 ちまちま工房
電話：072-735-7901 mail: kyodoren33@gmail.com URL: <http://kyodoren.org>



【谷口円】夏がキライです。暑いのが苦手だし、虫がたくさんいるし、夏服には着たいものがなく、外に出なくなります。なのにアイスクリームがとっても美味しいので、体重増加に悩む毎日です。



【飯島照喜】数十年ぶりの京都大文字焼き。期待とは裏腹に集中豪雨。雨に露む一点を見つめていると「あれ、見えた」。隣の人が「あれはネオンサインの光り」。ああ～無情。いつこに…

安倍総理の要望通り、中央最賃審議会は、最賃を3%アップさせるという答申を出した。秋になって地方最賃審議会で決まることになる。3%という大阪府の現在の地域最賃は、858円から26円アップで884円となる。日給8時間なら7072円、月給20日勤務なら141,440円となる。この額で改定されると、過去最高だった昨年の改定額を大幅に上回ることになるから、経営側の抵抗も予想され、中小企業の多い大阪府の最賃審議会は紛糾するかもしれない。

この最賃額を手取りとして支払うには、企業側の負担は社会保険料等を含めると約1.5倍と推計され、時間給1326円、月額約21万円になる。例えば、従業員の内50人が最賃で働いている会社なら、月額約30万円、年額360万円の賃上げの原資が必要となる(最賃以上の他の従業員への波及を考えるとそれ以上になる)。安倍内閣は、政府の中小企業振興の「キャリアアップ助成金」や「業務改善助成金」を増額すると発表した。要するに、生産性を高めるために、機器購入や資格取得、資質向上の費用の一部を助成するというものだ。これは良いことだが、業務改善助成金の上限額は100万円になっているから、多少の上限改定をされたとしても、企業の持ち出しは相当なものになる。

一方、元請、発注者が最賃に合わせて契約単価を改定してくれるのだが、最賃額(884円)じゃなくて社保料も含む労務単価(1326円)に合わせた改定をしてもらわないといけないから、話は簡単じゃない。自治体も庁舎清掃などいろんな業務を民間企業に発注しているが、「官製ワーキングプア」なんて揶揄される低賃金になっている。発注金額の基準が最賃額(884円)になっており、労務単価(1326円)になっていないのではと疑う事例も多い。そこで、地域最賃とは別に、自治体の発注業務を発注者と受注者が対等に審議して決める「公契約条例」を創ろうという自治体も出てきているわけだ。

もう一つ心配するのは、企業は最賃アップに合わせて生産性(率)を求めるあまり、障がい者雇用等を疎んじないかということだ。間違うと、賃金が上がって雇用を奪われる、なんて事態になる。だから、ボクは「就労支援付労務単価」という提案をしてきた。つまり、障がい者への就労支援という

最賃改定の三方よし

い湯かげん

社会的コストを発注者の労務単価に加算してほしいというもので、大阪府はすでに労務単価の3%を「福祉推進費」という名目で加算してくれている。つまり、最賃を支払うためには、社会保険料等を含めた労務単価の積算が必要であり、障がい者雇用等の社会的コストに対する単価も積算する必要があるということだ。いわゆる「所得再分配」という大義は「細部に宿る」で、今や労働者の過半に影響を及ぼす最賃改定を、賃金を上げる、契約金額を上げる、福祉を興す「好循環」にしていこう、というのがボクの「いい加減」である。

株式会社ナイス代表取締役 富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

hidarimaki

ぼの細道



先日文楽劇場のサマーレイトショーで金龜親文恋詩を見ました。井上ひさし作ですが、モリエールの守銭奴をベースにして文楽では新しい演目です。文楽特有の湿度感が薄く、演時間も短くて笑いのあるお昼を楽しみました。

この恋の成すまで鳴かん蟬しぐれ
梅雨明けもまだ爆音がやまぬ島
じゃんじんと朝騒ぐ蟬夜に黙す

障害が殺す基準か蠅叩き
帝国の怨霊のさばる無恥の夏
威に媚びて矜もまたぬ油蟲



今月の花:なでしこ (テルスター)

花言葉「純粋な愛」「才能」「無邪気」「野心」「心慕」
なでしこは秋の七草の1つになります。花姿が「なでたくなるほどかわいらしい」ことを意味します。



最近、本当に静かな町になりました。朝からお酒を飲んでいる人も少なくなり、ケンカをする人もほとんどいなくなりました。店の前でよく倒れる人がいて、頻繁に救急車を呼んだり、警察の人を呼んだり、忙しい町でしたが、最近本当に平和な1日を過ごすことが多くなりました。ここへ来た頃のまちは、完全に変わりました。みんなおじいちゃんになったのかな? (なんばひとみ)

6時間



牛井一杯頼むのに「うなる」おっちゃん達。タッチパネル式券売機だ。店員さん、すぐに教えてあげて! 何度か手伝ったが、牛井並を頼むのに計3回もボタンを押す。効率的? (安田拓也)

くらし

セミの声に絡まりながら、9時を回るとおばちゃんが、えっさほいさとアパートのトイレや廊下をピカピカに。「無理せずに。」と一声掛けると「ダイエツトやから〜」とニコやかに。そんなひと朝。

このまちには、昔ながらの住居が沢山のこる。僕の住むアパートは「文化住宅」と言われ、廊下が屋内にあり屋外にあるものは外から玄関先が見える。長屋にも一階建や二階建があり、上下違う人が住む住居もある。通りを歩くと、細くて長〜い路地がたくさんあることに気がつく。

そんな昔ながらの場所は、通るだけで生活の気配をフッと感じる。だから良くもわずらわしくも、近所仲が深くなる。路地に入ると足元を花壇や猫が通りすぎ、晴れた日はシャツがなびく。家の中から、はずむ会話やテレビの音が聞こえ、夕方には洗い物と、包丁とまな板の軽快な音が聞こえる。

暑苦しくもあったかい、ゆっくり時の流れる、しずかで賑やかなまち。



[若松司] 競い合う身体には抗いがたい魅力があるが、会場を取り巻く社会状況を知ると、手放しで喜んでもいられない。東京五輪の開催に反対する友人には一理ある。年取ったなあ。



[西田吉志] 8月に地元の子供達と和歌山県龍神村へキャンプに行きました。はじめましての子どもが多い中、たった2日共に行動するだけで仲良くなれるキャンプのスゴさを改めて感じた。

にきゅん 飯ユラン メシ

6軒目

『すし半』



ミシュランならぬ“飯ユラン”。匿名でなく飯島(だから飯(メシ)ユラン)が「店主がおもしろい」、「店の客が楽しい」、「料理が、味がおいしい」の3つの「い」を基準に、西成区内の飲食店などを紹介します。

『安い』『うまい』『多い』、定食屋の3つの原則、このうち二つ該当すれば「まあ、飯シュランに載せる価値あり(ほんと適当です)」。

この店、お造り定食、ちらし定食、にぎり定食とメニューは極めてシンプル。迷うことなく「お造り定食」をカウンター越しのおかみさん(いや、お母ちゃんやね)に注文。「暑いね。たまらんなあ、この暑さ、いつまで続くんやろ」。「ほんまや」と言っていて、ものの3分も経たないうちに、寿司桶に入ったご飯、イワシの煮つけ、切り干し大根、昆布と漬物、野菜の煮物、にゅう麺、おまけに海苔が添えられている。「ええ、こんな注文してない、お造り定食や」と心の中で密かに思いつつ、箸を持つ瞬間、「はい、お造り」。「それにしても多い、主役が霞むほど、脇役もなかなかのものだ、いただきます」。

すし半は昭和33年、現在地から少し離れたバス通りで開店。「結婚とほぼ同時でしたよ。平成25年にここに移ってきた」(店主の木越弘子さん)。「ご主人は?」
“6月に脳血栓で倒れ、病院に入院中。真面目にコソコ

ツと仕事一筋の人でね”

“すし半という店名は、主人が道頓堀にあるすし半に働いていたことからつけたもの。寿司を中心に年中無休、夜も開いてたんよ”。どうりで、寿司ネタの定食。“主人が倒れて、私とパートさんと2人で切り盛りしている”。

お造りを囲んで小鉢が4つ、それに汁もの。「お母ちゃん、多くない?これで550円は採算も合わないのどちがう?」。「ええんよ、家にこもっていたら、体に良くない、こうして働いてるのがええんよ」。ちらし定食も550円、にぎり定食のみ850円。11時過ぎ、ご近所の人や会社員がやってくる。やはり最初は異口同音に「多いな。安いな」。「別に儲けようとは思ってへん。元気で働けたらええねん」。客には活力を、木越さんは元気を、てんこ盛りにした定食、ごちそうさんでした。

すし半

場所: 西成区梅南2丁目1番3号

電話: 06-6651-8733

営業時間: 10:00 ~ 14:00 (水・日祝日休)

あとがき

リオ五輪が開幕したころ、横浜FCのカズが49歳5か月でJ2最年長ゴールを記録した。ロンドン五輪の最年長選手だった馬術の法華津さんもリオ出場はかなわなかったけど、75歳でチャレンジした。ほんまにすごい!!でも、同時期に40年で廃炉予定の美浜原発3号機が、20年の延命に・・・1億総活躍や生涯現役の推進はいいけど、こちらはいただけない。

(岡岡)